

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070501152		
法人名	NPO法人虹の会		
事業所名	グループホームいそねの里		
所在地	福岡県北九州市小倉南区中曽根東2-16-36 (電話) 093-475-5583		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果確定日	平成25年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

その人らしい暮らしが出来るよう、家族との連携を取りながら、本人本位の介護を心がけている。
また、同業者との勉強会を通じて、職員のスキルアップ、管理者の情報交換を行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成25年9月19日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

田園に囲まれ空気がきれいでのどかな環境の中、利用者は穏やかに過ごしている。職員が利用者と一緒に同じ食事を摂るなど、日常生活を共有することを大切にしている。事業所では「みんないきいき（個性）、あたたかい心（共感）、ほっとする場所（笑顔）」という介護理念を実践するため、家族・利用者の意向や要望を聴き、利用者一人ひとりの意向に沿った介護を目指している。また、職員がリフレッシュ休暇を取ることができるなどの働きやすい環境を整備し、研修については近隣の他法人のグループホームと3事業所合同で行っている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示し、職員全員が共有出来るようにしている。	地域密着型の視点を持つ独自の運営理念と介護理念がある。介護理念については朝礼などで確認し、理念の実践に向けて言葉かけや関わりの中で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方への挨拶や言葉かけを日頃より心がけ、信頼関係を築いている。	町内会に加入しており、清掃や夏祭りなどの地域活動に参加している。近所の方から取れたての農作物のおすそわけをいただくなどの関係づくりができています。また、職場体験学習を通じて近隣の中学校の生徒と交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや見学者を多く招き、認知症への理解やいそねの里の理念を広めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	提供頂いた意見を元に、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催し、利用者やサービスの実際、取り組み状況など事業所の現状を報告している。また、火災時の援助などを運営推進会議を通してお願いしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者を中心に連携を図っている。	地域包括支援センターや市民センターに事業所のパンフレットを置いている。また、入所依頼や事業所の空き状況などの情報のやり取りを行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危機管理委員会を設け、会議や勉強会で取り組んでいる。いそねの里職員基本姿勢を掲げ、日頃から身体拘束及び虐待防止に注意を払っている。	事業所内に危機管理委員会を設置し、月に1回程度委員会を開催している。また、グループホーム3事業所合同で研修会を定期的に行い、身体拘束をしないケアの取り組みを実践している。日中は玄関その他の出入りできる個所は施錠しておらず、ベッド柵は立ち上がりが必要な部分のみ設置している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	危機管理委員会を設け、会議や勉強会で取り組んでいる。いそねの里職員基本姿勢を掲げ、虐待防止に努めている。虐待防止の意味を職員全員が把握し、考えて行動する様、努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修において学ぶ機会を持つように努めている。必要な入居者には、権利擁護・市民後見センターを活用できるよう支援している。	ご家族の方には、入所契約時に権利擁護に関する制度の説明をしており、権利擁護の活用が必要な状況になった時に再度説明をしている。現在2名の方が利用されている。3事業所合同の研修会で権利擁護に関する制度について研修を行い理解を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御利用者・御家族からの疑問・不安に対し、十分な説明を行い、理解や納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から御利用者の声に耳を傾け、取り組みや改善に努めている。	運営推進委員会へ利用者や家族の出席があり、意見や要望を事業所へ伝える機会がある。また、意見箱を設置したり、意見や要望を随時聞いている。会話の中から要望を聞き出すなどの工夫もしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、報・連・相を行っている。	月1回の部署会議で意見を言う事ができる環境がある。管理者が個人面談を行い、意見や要望を聞くシステムがある。また、年に1回程度リフレッシュ休暇をとることができ、働きやすい環境を整備している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績勤務状況を把握し、向上心を持って働けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用において、性別、年齢等を理由に採用対象から排除していない。職員には、各種手当での支給を行い、資格取得に向け勤務日を考慮している。	職員の募集・採用を性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはなく、職員の資格取得のため勤務日程に配慮したり、必要であれば外部講習の費用を出すなどの支援を行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や勉強会で取り組んでいる。	昨年度から人権教育に関する研修等が行われておらず、資料等の確認もできなかった。	計画的に人権教育等に関する研修を行っていたが、記録や報告書等についても保管・整備されることを期待したい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、段階に応じた法人内外の研修を受講するシステムを確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協会に加入している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの経緯・現状・意向について傾聴し、安心を提供できるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでの経緯・現状・意向について傾聴し、不安の解消に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族からお話しを伺い、状況を見極めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者が出来ることは、なるべく行って頂いている。又、その際には、職員も加わり共に行うようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の来所時は、情報交換を行うと共に、ご家族に声に耳を傾けるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者の馴染みのある人や場所を把握すると共に、知人が来所しやすい環境作りに努めている。	日頃から利用者や家族から馴染みの人や場所を聴取しており、誕生日のお祝いを兼ねて希望する場所へお連れする等の対応をしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者の生活の場であることを職員が理解し、御利用者同士が良好な関係を築けるよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、継続的な関わりを必要とする御利用者や御家族には、関係を断ち切らない努力をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者が何を望んでいるのか、今までの生活歴も見ながら、御本人の意向を汲むように努めている。	職員は、利用者のちょっとした仕草等のサインを把握し対応している。職員間で情報交換を行い、利用者に寄り添い納得いただけるような対応を心がけている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接にて、御利用者の把握に努めている。又、入居後も、可能な限り生活リズムを崩さず暮らせるよう支援している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個々の状態を把握し、出来る範囲で自立支援を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者がより良く暮らせるよう職員間で話し合ったり、御本人や御家族と意見交換することにより、現状にあった介護計画を作製している。	介護計画は6ヶ月ごとに見直ししており、状態に変化があった時には臨機応変に対応している。見直しを行う時は、まず家族や本人の意向を聞き、モニタリングの結果を参考に担当者、ケアマネジャー、管理者を交えて素案を作成し、他の職員の意見を聞いて計画を完成させている。作成後に家族に確認し署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの状況や職員の気づきを記録し、情報を職員間で共有すると共に、申し送り等により現状を把握し、介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御利用者にとって負担になる受診や入院を出来る限り回避すると共に、必要な医療処置は受けることができるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民やボランティアと協働しながら、出来る限り支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度かかりつけ医の往診を受け、御本人や御家族の希望を報告し、適切な医療を受けて頂いている。	かかりつけ医は従来の主治医としているが、事業所と契約している内科医の往診が月に2回あり、家族や利用者の負担が少ないため移行する方が多く、現在は全員が契約内科医を主治医としている。また、歯科も週に1度往診がある。他科受診は家族の付添いが基本だが、緊急時や都合がつかない時は職員が対応している。家族には連絡、受診後に内容を報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	御利用者個々の状態を知っている看護師を確保し、適切な支援を受けて頂いている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	御本人や御家族、医療機関と相談し、出来る限り早期退院をして頂けるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や入居中に話し合う場を設け、意見を聞いている。又、かかりつけ医と連携を図る事により、職員全員で終末期に対応できる環境作りが出来ている。	明文化された看取りに関する指針があり、入所時に家族・利用者に説明している。同意書もあり、署名・捺印をもらっている。重度化した場合、家族・かかりつけ医・職員と話し合い、合意を図りながら方針を共有するようにしており、24時間かかりつけ医・看護師と連携が取れる体制がある。これまでに看取りの経験もある。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修会に参加し、取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会の必修項目に挙げ、職員全員が周知している。火災については、年2回の避難訓練をおこなっている。	年2回の避難訓練は消防署協力のもと実施している。また、夜間想定訓練も実施している。地域住民への参加呼びかけは行っていないが、町内会議に参加し、行事のお知らせをしている。緊急時の備品に関しては事業所内に飲料水、非常食を備蓄している。簡易トイレや防寒対策までには至っていない。	運営推進会議や地域の会議で、地域住民に対して防災訓練への協力を働きかけ、参加の呼びかけを行っていただきたい。また、非常用備品の収納場所については職員全員に周知するように徹底して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応する前に、適切なものかどうかを考えながら行うようにしている。	職員は利用者の「人格の尊重」の大切さを内部研修や外部研修で学び、習得している。その重要性を日頃の介護にも生かし、失禁時やトイレ誘導などには、利用者の人格を損なわない言葉かけや配慮した対応をしている。また、個人情報などが漏れないよう書類も保管庫に入れるなど厳重な管理を行うなど注意している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定事項を伝えるのではなく、御利用者が選択出来る言葉かけをするように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを考慮し、在宅と変わらない空間を提供できる様に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや習慣が継続できるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者と職員が共に食事することにより、会話を楽しみながら食せる環境を作ると共に、一人ひとりの好みや力を活かしながら食事の支援をしている。	管理栄養士が1週間分の献立をたて、バランスの良い食事となるよう心がけている。職員全員が同じものを同じテーブルで、介助しながら食べている。各自の好きな献立や要望は、誕生日会や敬老の日などに反映させている。また、誕生日のケーキの代わりにぼたもちケーキなどを作ったり、甘いものは手作りおやつで楽しんでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や栄養バランスを考慮しつつ、一人ひとりの体調や希望に応じ、無理のないように提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態にあったケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促すと共に、その時の精神状態や気分を察し、言葉かけの仕方を工夫する努力をしている。	排泄頻度やパターンは個人の介護日誌に記載して、申し送りなどで利用者それぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。半数ぐらいの方が昼間は布パンツを使用されており、排泄の自立支援を行っている。夜間は紙パンツやパットを使用する利用者がほとんどだが、夜間でもトイレ誘導を行うなど、自立に向けた排泄の支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別に応じた予防を行い、便秘がちの方にチェック表を作成し、管理している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	個人の希望や意向を尊重し、無理のない入浴の言葉かけを行っている。	入浴は1日おき週3回、午後4時～6時の間で行っており、希望すれば毎日でも入浴はできる。入浴拒否の方に対しては、スタッフを替えたり、話題を替えたりしながら入浴を促すようにしているが、無理強いはせず、清拭で対応している。ゆず湯など季節に応じて入浴に変化もつけて楽しむことができるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活リズムに合わせて休んで頂いている。又、安心して休息出来るよう環境整備にも努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬・外用薬を把握できるようファイリングしている。服薬の管理は職員が行っており、飲み忘れや誤飲のない様に支援している。又、状況が変わった際の報告は、かかりつけ医と密に行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ・歌・ハーモニカ・大正琴等、一人ひとりが楽しみを持って生活出来るよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩を取り入れている。	天気の良い日は事業所の外で外気にあたる程度の散歩をしている。ドライブは月に1回程度、北九州空港周辺や行橋等に行っている。買い物は2～3ヶ月に1回程度、外食を兼ねて門司港レトロや行橋など、利用者の希望に沿って行っている。また、四季折々の花見や菖蒲を見に行くこともある。年中行事には家族に参加を呼びかけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、外出時等の買い物時に、御本人が支払いを出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望する時に電話をかけることが出来るよう支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理に気を付け、ホールの空間は極力広く取れるようソファ等の配置している。	1階はシンプルで静かで、2階は構造上明るく華やぎを感じさせる。造りはほぼ同じだが、職員や利用者の個性がその違いを醸し出している。各居室には障子で作られた小窓があり、和の柔らかい雰囲気や落ち着きがある。職員のアイデアを生かしたカレンダーや小物がアクセントになり、落ち着いた居心地の良い空間になっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御利用者の関係性を配慮すると共に、居室でもゆっくりと過ごせるよう支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、御本人の使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地良く生活して頂けるよう努めると共に、居室内の清掃・リネン交換後も、元にあった場所に物を戻すよう心がけている。	事業所が提供するエアコン、洗面台、クローゼット、カーテン以外は自由になじみの物を持ち込んでいる。各自ベット、布団、筆筒や仏壇、テレビ、冷蔵庫などを持ち込み、できるだけ快適に過ごせるよう家庭的な仕様になっている。家族、孫やひ孫の写真、市町村からの長寿の表彰状などが所狭しと飾られていた。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かせるよう職員間で話し合い工夫すると共に、御利用者に危険が無いように、家具の配置や危険物の管理に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示し、職員全員が共有出来るようにしている。又、定期的に勉強会において話し合いを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	常日頃より、近隣の方への挨拶や言葉掛けを行い、馴染みの関係を作っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の、お話しボランティアを受け入れて理解を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	提案した意見をもとに、入居者のサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に、市町村との連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危機管理委員会を設置し、会議等ですべての職員に身体拘束禁止の周知徹底を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各会議、勉強会ですべての職員に虐待禁止の周知徹底を行い、そのケアに取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現実に成年後見制度を利用されている方がおられ、実践を通じて理解を深めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に左記について十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から御利用者や御家族の意見を聴くと共に、運営推進会議の場でも聴くようにしている。又、玄関には意見箱を設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の場や個人面接において、職員の意見を聴き、運営に反映されている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者・職員個々の努力や実績勤務状況を把握し、向上心を持って働けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>左記の採用事項について排除しないようにしている。又、職員には各種手当の支給を行い、資格取得に向け勤務日を考慮している。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>研修・勉強会において取り組んでいる。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じた法人内外の研修を受講するシステムを確保している。外部研修については、案内を掲示し職員に周知し、参加希望があれば率先して参加してもらっている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協会に加入している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者には、ご本人に事前の面談を行い不安の解消に努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者の御家族に事前の面談を行い、不安の解消に努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族からの聞き取り、ご本人の状況を見極め等により、アセスメントを行い、その時障害となっている部分に着目し、プランを作成している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、入居者に出来ることはなるべく行って頂いている。その際には、職員も行動を共にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の来所時には、情報の交換を行い、月に一度職員が書面（手紙）にて報告している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で、馴染みの場所に出かけ、昔を回想して頂けるように努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、席の配置等を考慮したりしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や御家族には、関係を断ち切らない努力をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意見を取り入れ、ケアプランを作成している。又、日々の生活において嗜好等を尋ね、その意思に沿えるように努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接で情報収集を行っており、入居後得た情報も職員間で共有している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やプランにて把握に努めている。又、申し送りに等より、情報の共有を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成する際には、ご本人や御家族の意向を尋ね、プランに取り入れている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録等に職員が目を通す事で共有している。入居者の思いや行動の変化を把握し、状況に応じた支援を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族状況や希望により、医療機関の送迎を行っている。又、必要な医療処置を受けながらの生活支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民やボランティアと協働しながら、出来る限り支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、かかりつけ医に往診を依頼している。又、特変時や必要時は、医師の指示を仰いでいる。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の個別状態を知っている看護師を確保している。かかりつけ医の看護師より指導を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、御家族よりその都度状態を尋ねたり、本人の訪問を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要時には、御家族や医師の相談し、その意向に応えられるように職員全員で方針を共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会において、救命救急の研修を救急隊員より受けている。又、かかりつけ医より研修を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会の必須項目に挙げ、職員全員が周知している。火災については、年2回の避難訓練を実施している		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対応する、個々に応じた言葉掛けで対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草を見て言葉掛けを行い、日々の関わり合いを大切に、信頼関係を深めるように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で休まれたり、ホールでくつろいだりして過ごされている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みや習慣が継続出来るよう支援している。又、行事等のある時は、希望者には化粧をして頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせた食後の片付けや、食器洗い等を職員と一緒にやっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握し、状態に応じた食事形態で支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々人の習慣や口腔状態に応じた支援を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握すると共に、言葉掛けや雰囲気察知し、個別にあった支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを把握し、定期的に排便が望めるように、水分摂取や適度な運動を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人の希望や気分、また体調を考慮して入浴して頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や思いを考慮し、定期的にトイレへの言葉掛けを行う等、個々に応じた支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬の説明書が個人ごとにファイルされており、職員はいつでも自由に見れるようにしている。又、服薬支援する際には、個人ごとに仕分けボックスに配置している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野や興味の持てることを活かしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日には、近隣の店に散歩がてら買い物に出掛けたりしている。又、ドライブや一日外出の機会を設け、外食等の支援もしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持って頂き、買い物の際にご自身で支払って頂けるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時には、電話の利用を手助けしたり、手紙については、要望があればそれに応じた支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内には、絵画や手芸用品を飾り、その季節の花なども飾っている。又、異臭が無いように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は清潔に心掛け、斜光・音・温度に留意している。又、入居者間の関係にも配慮した居場所作りを心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込んで頂き、ご本人が居心地良く過ごして頂けるように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能が活かせるような環境を職員間で話し合い、安全かつ安心して過ごせるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない